



令和5年度 宮島学センターフィールドワーク

宮島学センターでは、活動の柱のひとつである「宮島学教育」の一環として、本学の学生を主たる対象としたフィールドワークを実施しています。

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へ移行されたことにより、ここ数年活動を縮小していた「宮島学センターフィールドワーク」を本格的に再開することができました。

今年度は、少人数かつ屋外での活動を中心とすることを心掛けながら、宮島の自然、歴史、文化を宮島の現地で体感することを目的に、全4回のフィールドワークを開催しました。

①宮島のキノコ観察会

日時：令和5年6月10日（土）9時30分～13時

場所：大元公園（廿日市市宮島町）

講師：森永力学長

参加者：22名（学生10名〈大学院生1名、地域創生学部4名、地域資源科学部3名、保健福祉学部2名〉、教職員等関係者12名）

コース：宮島栈橋～町家通り～大願寺前～宮島歴史民俗資料館前～大元公園～大元公園休憩所～大元公園（キノコ観察会）

このフィールドワークでは、宮島の大元公園を散策し、キノコの観察会を行いました。広島・庄原・三原キャンパスの学生や教職員が参加し、木々の根元や枯れ葉の下から発見したキノコをスマートフォンで撮影して、画像を共有しながら



約2時間の観察を楽しみました。参加者が発見したキノコの中で特に珍しいものについては、順番にその場へ移動して、森永力学長による詳細な解説を聴きました。

応用微生物学がご専門の森永学長は、自然界で菌類が果たす役割や、樹木と共生するキノコ、宮島の鹿の糞生菌の特徴などについて解説してくださいました。

また、大元公園休憩所では、馬本勉副学長が、自作のパンフレットを使いながら、宮島ホテルや明治以降の宮島における英学の発展について解説されました。



↑参加者が撮影したキノコ

森永学長による解説に
耳を傾ける参加者たち



このフィールドワークに参加した学生からは、次のような感想が寄せられました。

「普段はきのこを探すために宮島を散策することがなかったため、大元神社の周辺にこんなにキノコがあることに驚きました。また機会があれば、このような観察会に参加したいと思います。新たな視点から宮島を見ることができ、大変興味深かったです。」（地域文化コース4年生）

②厳島神社管絃祭 ちょうちん作りボランティア

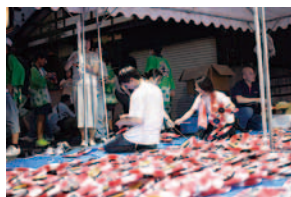
日時：令和5年8月3日（木）（旧暦6月17日）

18時～21時

場所：長浜神社周辺（廿日市市宮島町）

参加者：12名（学生8名〈いずれも地域創生学部〉、
教職員4名）

このフィールドワークでは、宮島観光協会が主催する管絃祭ちょうちん作りに、本学の学生と教職員がボランティアとして参加しました。当日は宮島学園（宮島小中学校）の児童・生徒らとともにおよそ1000個のちょうちんを作成し、長浜神社の参拝者に手渡ししました。ちょうちんは地御前から長浜神社、長浜神社から大元神社に渡る御座船や漕船を出迎える際に利用されました。



猛暑の中、テント内で
ちょうちんを作成する学生



作成したちょうちん

③ 厳島神社菊花祭 および歴史民俗資料館の展示見学

日 時：令和5年10月15日（日）15時～19時

場 所：厳島神社周辺（廿日市市宮島町）

参加者：7名（学生5名〈いずれも地域創生学部〉、
教職員2名）

コース：宮島栈橋～宮島歴史民俗資料館
～厳島神社

このフィールドワークでは、はじめに宮島歴史民俗資料館を訪れて、企画展示「桂太郎と杉孫七郎」及びミニ展示「宮島を訪れた人々（秋）」を見学しました。

17時からは厳島神社に参拝し、毎年10月15日に執り行われる菊花祭を見学しました。客神社・本社での祭典や、高舞台上で奉納された舞楽（振鈴、萬歳楽、延喜楽、一曲、曾利古、散手、貴徳、陵王、納曾利、長慶子）を見学しました。

このフィールドワークに参加した学生は、いずれも地域文化コース2年次が開講している科目「宮島学」を受講しており、講義で学んだ内容と現地での体験を結び付けながら学びを深めました。

④ 広島城企画展示 「安芸宮島の景 一描かれた大鳥居一」見学会

日 時：令和5年11月5日（日）9時～11時

場 所：広島城（広島市中区）

参加者：11名（学生7名〈いずれも地域創生学部〉、
教職員4名）

広島城で開催された企画展示「安芸宮島の景 一描かれた大鳥居一」では、宮島学センターが所蔵する浮世絵など16点も展示されました。

この見学会では、企画展を担当した広島城学芸員の吉田文さんに、展示作品の見どころを1点ずつ解説していただきました。

広島城は多くの来館者で賑わっており、たまたま居合せた方も足を止めて解説に聞き入っていました。



見学会の様子

吉田さんには、学生ら参加者から次々と寄せられた質問にも、快く応じていただきました。

学生たちは、フィールドワークを解散した後も展示会場に残り、熱心に作品を鑑賞しました。



令和5年度の「宮島学」関係科目

本年度に開講した「宮島学」関係科目は、①地域創生学部同学科地域文化コース2年次配当の「宮島学」、②全学共通教育2年次配当科目「地域教養ゼミナールA」の「宮島観光学入門（英語）」、③地域文化コース3年次配当の「宮島観光学（英語）」です。

① 宮島学

（地域文化コース2年次配当科目）

開講期間：第3クォーター金曜日1・2コマ

授業の形態：対面

履修学生：80名

授業の構成			
1	9 / 29	宮島学について（初回ガイダンス）	大知徳子
2	9 / 29	厳島神社の歴史	秋山伸隆 (本学名誉教授・宮島学センター学外協力員)
3	10 / 6	平清盛とその時代	鈴木康之
4	10 / 6	平清盛の経済施策と厳島神社	鈴木康之
5	10 / 13	現在の厳島神社の内侍	授業内講師 中川 瑛梨 (厳島神社 内侍)
6	10 / 13	厳島神社の舞楽装束	鄭 銀志
7	10 / 20	『平家物語』に描かれる厳島	目黒将史

8	10 / 20	舞楽説話と日招き伝説	目黒将史
9	10 / 27	厳島八景の成立	柳川順子
10	10 / 27	「孫文」を通して見る宮島	工藤卓司
11	11 / 3	厳島神社の大鳥居	秋山伸隆
12	11 / 3	厳島を訪れた人びと、支えた人びと ー「石風呂入治記」を中心にー	西本寮子
13	11 / 10	宮島とICT	宇野 健
14	11 / 10	宮島のアプリ	宇野 健
15	11 / 17	担当教員全員によるパネルディスカッション	

第5回は、授業内講師として中川瑛梨さんをお招きし、「現在の厳島神社の内侍」と題して特別授業を実施していただきました。内侍（厳島神社の巫女）の職務内容の詳細に加えて、内侍として日頃心がけておられることについても語っていただきました。

中川さんは本学の卒業生で、在学中は「宮島学」の活動（企画展示やフィールドワーク等）に積極的に参加されました。大学院では柳川順子教授のご指導のもと、修士論文で「厳島八景」（漢詩）について研究された経験談についても紹介していただきました。



第5回の講義

舞について解説する
中川さん

第14回は、宇野健准教授のゼミで宮島観光アプリを開発している富岡夕葵さん（地域産業コース4年生）が、アプリの内容や操作方法について紹介しました。受講者は各自のノートパソコンを講義室に持参し、富岡さんが開発しているアプリを操作して実験に協力しました。このアプリは、Webブラウザの地図上を移動しながらフィールドワークのような学習を可能とするもので、厳島神社の狛犬の所在地を巡り、謎解きをしながら学ぶことができます。また、アプリでは地域文化コース3年生の渡邊奈々穂さんが宮島学センターと共同して作成した狛犬に関する課題も表示され、受講者たちは楽しみながら回答しました。

受講者によるアプリ操作のデータは、富岡さんの卒論をはじめとして、今後のアプリ開発に活用されます。

第15回は、担当教員8名によるパネルディスカッションをおこない、授業のまとめをおこないました。

②宮島観光学入門（英語）

（全学共通教育2年次配当科目「地域教養ゼミナールA」）

開講期間：第3クォーター（集中講義）

授業の形態：広島キャンパスでの対面授業（3日間）
および宮島でのフィールドワーク（2日間）

担当教員：馬本 勉、Richard Weber（非常勤講師）

履修学生：7名

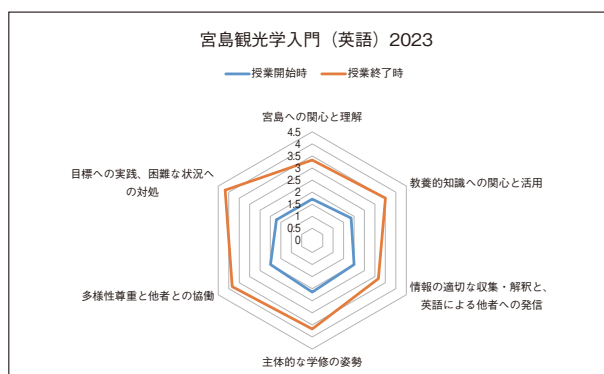
授業の構成		
日	実施日	内 容
1	10 / 8	10:40-16:10 【3コマ】 英語演習／宮島についての事前学習
2	10 / 15	10:40-16:10 【3コマ】 宮島フィールドワーク（ガイド予定箇所実地見学）
3	10 / 29	10:40-16:10 【3コマ】 バーチャルツアー（模擬ガイド演習）
4	11 / 12	10:40-16:10 【3コマ】 宮島フィールドワーク（英語ガイド実践演習）
5	11 / 19	10:40-16:10 【3コマ】 フィールドワークの振り返り 英語ガイドプレゼンテーション

宮島でのフィールドワークでは、初回（10月15日）にガイド予定箇所の実地見学を行い、第2回（11月12日）はアジア各国からの本学留学生7名に対する英語ガイド実践演習を行いました。

集中講義前後の科目ルーブリック自己評価により、履修学生が授業を通じて成長を実感している様子が見て取れました。



宮島フィールドワーク（10月15日、11月12日）



（馬本 勉）

③宮島観光学（英語）

（地域文化コース3年次配当科目：文化継承コアユニットII、第4クォーター開講）

この授業ではフィールドワークを2回実施しています。

Richard weber 先生の案内でガイドのポイントとコツを学ぶ1回目は12月16日(土)に行いました。案内は宮島口フェリー乗り場、チケット購入方法の説明から始まります。渡島後は、島の全体像とコースをマップで確認し、ゆっくり歩きながらガイドのコツを学びます。オリジナルテキストで学んだことや表現の再現にとどまらず、「宮島学」で得た知見を、身振り手振りを交えて自分の言葉で説明するなど、意欲的に取り組む姿勢が見受けられました。あせび歩道では「書誌学」で学んだ知識をもとに石碑の解説に挑み、Weber 先生に説明する場面もありました。

2回目は年明けの1月28日(日)。寒風吹きすさぶ中、9月に地域文化コースに着任された Jessica Tynes 先生の協力を得て、宮島初訪問のみなさんをご案内しました。さりげない会話や質問から相手の興味や関心を探り、歩くペースや時間配分を考えながらの案内は想像以上にむずかしく、想定外の出来事の連続でしたが、またとないガイド実践の機会に恵まれました。



教室で学んだ知識を活用しながら、実践力と応用力を身につける体系的な学びの一環として、「宮島観光学(英語)」のフィールドワークは重要な位置を占めています。(西本 寮子)



「宮島歴史散歩」の発行

令和5年3月に、パンフレット「宮島歴史散歩～大願寺から大元神社まで～」、「宮島歴史散歩～社寺めぐり～」を発行しました。これらのパンフレットは、令和5年4月以降、宮島観光協会(宮島棧橋総合案内所)等において配布されています(無くなり次第終了)。

①宮島歴史散歩～大願寺から大元神社まで～

このパンフレットは、令和4年10月4日(火)から12月4日(日)までの期間、宮島の表参道商店街TOTO宮島おもてなしトイレ2階にある観光情報スペースにて開催した、学生によるパネル展示「宮島歴史散歩～大願寺から大元神社まで～」の内容を元に作成しました。

このパンフレットのマップやイラストは、廿日市市立



表面



裏面



大願寺



大元神社

イラストはいずれも河下添ちどりさんによるもの

②宮島歴史散歩～社寺めぐり～

このパンフレットでは、宮島に所在する社寺の歴史や見どころを紹介しています。マップに掲載しているQRコードを読み取ると、宮島学センターが所蔵する『芸州 厳島図会』(天保13年(1842))の挿絵と、現在の宮島の写真が並べて表示されるため、両者を比較しながら散歩を楽しむことができます。

このパンフレットは、平成29～30年度県立広島大学重点研究(学長プロジェクト)「地域文化資源の学術研究による新たな魅力ある観光情報の発信—世界遺産「厳島神社」と宮島を中心として—」と、令和4年度宮島学センター企画展示「宮島歴史散歩～大願寺から大元神社まで～」の成果を活用して作成しました。



表面



裏面(マップ)

このパンフレットは、本学の公式ホームページ(宮島学センター「宮島学教育」)からダウンロードすることができます。

「大鳥居のひみつ」パンフレット 繁体字版、簡体字版、韓国語版の発行

令和3年の発行以来ご好評をいただいている「大鳥居のひみつ」パンフレットの中国語版（繁体字版・簡体字版）を、令和5年3月に発行しました。

このパンフレットは、本学の留学生である劉麗丹さん（当時大学院2年生）が、柳川順子教授と工藤卓司准教授の指導のもと中国語に翻訳しました。

令和5年4月以降、宮島観光協会（宮島桟橋総合案内所）等において配布されています（無くなり次第終了）。

また、令和6年2月に、「大鳥居のひみつ」パンフレットの韓国語版を作成しました。

韓国語版は、本学で学ぶ徐奇延さん（地域創生学科地域文化コース3年生）が、鄭銀志教授と鄭遇澤准教授の指導のもとで翻訳原稿を作成しました。

令和5年度宮島学センター公開講座

廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催して、etto宮島交流館（宮島まちづくり交流センター、廿日市市宮島町412）において、以下の公開講座を実施しました。

第1回「ミクロの世界からみた宮島」

日時：令和5年9月16日（水）14時30分～16時

講師：森永力学長

受講者：52名

第2回「宮島の英学：宮島観光学入門（英語）事始」

日時：令和5年11月1日（水）14時30分～16時

講師：馬本勉教授

受講者：62名

第3回（予定）「厳島神社の舞楽装束」

日時：令和6年2月28日（水）14時30分～16時

講師：鄭銀志教授

全国厳島神社参詣記^⑮

工藤 卓司

別府 厳島神社

住所：山口県美祢市秋吉町別府水上

2022年5月5日、駐車場から売店の脇を流れる小川に沿って小道を抜けると、「厳島神社」の扁額を戴く石造の鳥居が見えてきた。それと同時に、右奥手に

色鮮やかなコバルトブルーの池が目を引く。名水百選「弁天池」である。鳥居をくぐって池に沿って歩みを進めると、決して大きくないが、厳島神社社殿があり、右奥には諏訪神社が小さく祀られていた。境内看板には「弁才天社として806～810年頃に創建」とある。『防長寺社由来』の社由緒書でも、「弁財天社」について花山院（968～1008）の創建だということから、その開創は平安中期頃に遡るのであろう。「厳島神社の巨樹群」の存在も、その歴史の深さを物語る。

本社の由来に関して、『防長風土注進案』七（美禰郡宰判、嘉萬村）に次のような話が残されている。かつてこの辺りには鬱蒼と生い茂った「長林」があった。それを開墾しようとした別府何某という者が、水の手に困っていたところ、当地に長く鎮座していた諏訪大明神が夢に現れて、「是より北に當り嚴嶋辨才天有、此社を勧請し祭をなさば神徳の顯然たるべし」と告げた。別府何某が夢のお告げに従ったところ、急に清水が湧き出したという。それが弁天池であり、嚴嶋弁才天・諏訪明神が当地に鎮座した所以なのだろう。水と弁天信仰の関係が窺われて興味深い。また、秋祭で奉納される県指定無形文化財「別府念仏踊」が1200年前から伝わるとされるのも、この社伝に由来するものである。

境内看板によれば、「1871年に広島県の厳島神社から三柱の水神を勧請祭祀したことで改称」されたらしい。今では別府厳島神社として地域の人々の信仰を集めるとともに、弁天池の深い青色が多くの観光客の心を癒している。（工藤 卓司）



厳島神社社殿と弁天池

厳島神社社殿

厳島神社鳥居

研究余録^⑮

菩提院遺跡出土の渥美焼壺について

菩提院遺跡は、廿日市市宮島町上中西町にある平安時代末から鎌倉時代にかけての遺跡です。宮島歴史民俗資料館の収蔵庫建設に伴って1990～91年に発掘調査が行われ、白糸川沿いに開けた谷の斜面を造成して築いた平坦面に、屋敷地が営まれていたことが明らかになりました。

出土遺物には中国産の陶磁器をはじめ、瀬戸焼（愛知県）の瓶子、肥前（長崎県）産の石鍋など、広

範な地域の製品が含まれており、厳島神社の門前町がどのようにして形成されたのかを考えるうえでは、きわめて重要な遺跡です。



渥美焼壺
(廿日市市宮島歴史民俗資料館所蔵)

なかでも注目したい資料の一つが、三河（愛知県東部）の渥美窯で12世紀末頃に生産されたと考えられる、口径18cm、高さ40cm程度に復元できる壺の破片です（写真）。渥美窯は、渥美半島一帯で12世紀から13世紀にかけて操業された陶器窯で、その製品はおもに東海地方から東の地域に流通しており、関東地方から東北地方の太平洋岸にかけて多く分布しています。西日本での出土例はそれほど多くないのですが、近畿地方や瀬戸内海沿岸、九州地方にも分布しています。広島県域では福山市の草戸千軒町遺跡とこの菩提院遺跡の2例のみが確認できています。

渥美窯が成立する12世紀頃には、日本列島の各地に壺・甕・播鉢という生活用具を生産する中世陶器窯が成立します。そうしたなか、渥美窯の製品にはそれらの器種に加えて、当時盛んに造営された経塚に埋納する容器など、宗教色の強い製品が含まれていることが特徴です。さらには、三河の国司であった藤原顕長（1118～1167）の名前が刻まれた壺が存在するなど、支配者階層との結びつきが強かったことが注目されています。

菩提院遺跡の渥美焼が、どのような経緯で宮島にもたらされたのかは明らかにできていませんが、厳島神社の社殿が大規模に造営された時期に、その背後で繰り広げられていた人々の活動を解明する手がかりとなる貴重な資料です。

（鈴木 康之）



寄贈資料の受け入れ

宮島関係図書のご寄贈について

長年にわたって、本センターの活動にお力添えをいただいている横山忠司さんより、宮島関係図書一式をご寄贈いただきました。深くお礼を申し上げます。

横山さんが収集された貴重な図書は、宮島に関する論文、雑誌、歴史関係の専門図書、地誌、紀行、ガイドブック、宮島観光のパンフレットなど多岐

にわたっています。

今後、宮島学研究や学生教育のための資料として活用させていただきます。



令和5年度企画展示の準備状況

宮島学センターでは、本学の学芸員養成課程で学ぶ学生らとともに宮島関係資料の研究結果を紹介する企画展示を実施しています。

令和5年度は、本学が所蔵する浮世絵を展示する企画展「宮島を描いた浮世絵」と、浮世絵の見どころをクイズとともに紹介するパネル展「宮島浮世絵くイズ」を次のとおり開催します。

企画展示「宮島を描いた浮世絵」

期間：令和6年3月1日（金）～3月11日（月）

※3月6日（水）は店休日

会場：ぎやらりい宮郷（宮島町幸町東表476）

パネル展示「宮島浮世絵くイズ」

期間：令和6年2月10日（土）～3月11日（月）

会場：表参道商店街TOTO宮島おもてなしトイレ
2階観光情報スペース

この企画展示は、地域文化コース開講科目「博物館展示論」や「博物館教育論」を受講した学生13名が企画しました。

企画展示の詳細は、次号「宮島学センター通信 第16号」で報告します。

編集後記

今年度の企画展示では、本センターが所蔵する浮世絵の原本を、初めて宮島で公開することになりました。

展示の準備のために、「博物館展示論」を履修する学生と何度も宮島に足を運びました。企画展示の内容は、後日小冊子にまとめる予定です。
(O)

編集・発行

宮島学センター通信 第15号

令和6年3月15日発行

県立広島大学宮島学センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

TEL.082-251-9534（地域連携センター内）

E-mail: miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ: <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/>